

Q:効果的な広報活動（SNS 以外で）について知りたいです

A:すでにオンラインのイベントやセミナーについての情報はだいぶ増えてきて、かなりマーケットの中である種の競争があるので、今の集客・広報活動はコロナ以前の時の大変さとあまり変わらない状況にあります。団体の垣根を越えて、広報活動を一緒に取り組んでいくことがおそらく今重要で、NPO の中間支援団体が協力して作成した NGO・NPO のためのウェビナーオンラインイベントポータルサイトも作成されています。この緊急事態下だからこそ他団体に協力を打診しやすいと思うので、コロナ禍をそういうことに取り組むきっかけにするのがお勧めです。

Q:オンラインでのインタラクティブな運営方法のヒントを教えてください

A:第 2 回、第 3 回のオンラインセミナーでまた改めてセミナーをご用意できればと思いますが、いくつか種類があります。チャットでの質問や感想をメインにしてラジオ番組のように進行する、つまり質問をチャットでもらってそこに返事を返していく方法がひとつです。次に、グループワークを主体として対話をメインする方法がありますが、これはそれなりに工夫が必要です。オンラインイベントは声を発してグループワークがしたいと思って参加している人ばかりではないことが難しさです。グループワークの時にマイクとカメラをオンにしないことが起こりうるので、そこにどう対応するかや、回線環境が参加者によるので、ブレイクアウトセッションルームに送ったらみんな（画面が）固まってしまった、といった問題が起きます。また、ホストは各ブレイクアウトの部屋を回遊して状況を確認できますが、対面でのセミナーほど情報がちゃんとキャッチできません。グループワーク盛り上がっていないな、とか、回線が止まってしまっていることをすぐに確認できないのが、主催側としてはかなり難しいところです。そこをどうケアしていくかが重要です。策としては、必ず事前に「このイベントは音声もカメラもオンで皆さんにも言葉を発してもらおうので準備をお願いします」、「回線を強いものをお願いします」、そして「耳だけ参加」の人は名前を変更して頭に「耳だけ」と追加してくださいとお願いすることです。

Q:会議・寄付・オンラインイベント用にいろんなツールが生まれている中でどれがお勧めですか

A:会議は Zoom（ズーム）がおすすめです。あとは Slack（スラック）とかチャットワーク（Chatwork）、チャットツールなんかもやっぱり併用できるとチームの連絡手段としてはメールよりは良いと思います。オンラインイベント用には、Google Home とか Google スプレッドシート等の Google のツールを使うことがお勧めです。対面でのセミナーで使用するワークシートとの代わりに Google のツールを使って個人ワークの時間を取り、それに入力し

て共有するというのも効果的です。参考までですが、寄付者管理とか会員管理、ファンドレイジング関係はいろいろなツールがあって別々になりやすいところですが、NPOに特化した congrant（コングラント）は、寄付金のクレジットカード決済から支援者の管理までファンドレイジングに総合的に対応するツールです。

Q：PEATIX（ピーティックス）に不正アクセスがあり、一部情報が流出したため利用を停止しています。どのような安全確認で再開すべきかを教えてください

A：クレジットカード決済等でイベントの参加受付ツールとして活用されていた PEATIX の不正アクセス問題で、主催者側の情報が流出したことがありました。今現在不安だから利用を停止しているという判断は妥当だと思います。こくち一ず等の他のツールを使用するかという代替策もありますが、情報流出等の問題の有無以外に、ツールがそもそもどこまで安全なのかを判断するのはセキュリティの専門家でない限り難しいところです。

Q：ハイブリッド型のイベント開催には選択肢が色々あるが、どういう形式を選択すべきなのか、さらにはどのように環境を整えれば良いのかが知りたいです

A：対面で、あるいはオンラインだと参加できない人にも参加してほしい場合、ハイブリッド型のウェビナーとかイベントもだいぶ開催されています。ウェビナーを繰り返していても、同じ画になってしまい、広報素材が増えません。広報素材のためだけではありませんが、リアルの場合には場が持つ発信力の強さがあります。ハイブリッド型でイベントを実施するには、会場のあるいはポケット Wi-Fi の回線があるということが大前提です。次に気を付けるのは、音声です。とくに会場の人に向けてマイクを使用して、オンライン参加の人に向かって PC で音を拾って発信する際に、マイクでのスピーカー発信と、PC 側の音の受信の相性が悪い場合があります。マイクを通すと音が割れる、ノイズ交じりになることが多くあります。オンラインだけだと全く感じませんが、ハイブリッドになると生じる音の問題があります。音響機材に詳しい方がいいのですが、経験上素人でもできる解決策は概ね 2 つです。ひとつはマイクを使わないことです。声を張ってマイクを使わずに PC 等の集音機材を話している人の近くに置く。もう一つがマイクを使う方法ですが、どこにスピーカーがあるかが会場でマイクを使うときのチェックポイントです。天井なのかとか背面なのかとか。当然スピーカーの出所と、集音する PC ないし集音機材の距離が近すぎると、ハウリングというかノイズが入ります。距離だけではなくて角度も微妙な位置取りで変わったりするので、ハイブリッド型で実施する際に音のチェックをするときは早い時間に会場入りして入念にチェックすることをお勧めします。チェックは、会場で音出しして、オンライン側に音を集音させる人と、離れたところでネットに繋いでそのオンライン会場に入室して、問題なく聞こえているかどうかを確認する人と 2 人置かないと難しいです。これは、同じ空間の中で確

認しているとどちらの音が聞こえているのかが判別しにくく、ノイズをしっかり拾えないためです。2人体制で音の確認をするということがとても重要です。3つめ、感染予防だとマスク、消毒、パーテーションの設置、マイクを使いまわさない等です。これらの飛沫感染対策は実施するべきだと思うのと、4つめ、些末なことですが、換気をするので地域にもよりますけれどもこの時期寒いです。参加者と講師の寒さ対策はぜひちょっと覚えていてください。参加者の満足度にも意外に関わってくるので、その辺りの環境整備はぜひ気を付けていただきたいです。

Q：ウェビナーとしての配信コンテンツを持っていますが、広く配信するのに効果的な方法はどんなものがありますか

A：ウェビナーを広く配信する際に、YouTube に設置すること自体は非常にいいと思います。YouTube が勝手に view を稼ぐのはなかなか難しいという前提ですが、参加型のウェビナーを開催するのでその前の事前学習として動画をご視聴ください、という使い方はあります。

Q：Zoom を YouTube でライブ配信していますが、YouTube でリハーサルをする際に途中で配信を止めると URL も変更になるため、開始前のリハーサルも全部配信されてしまいます。何か良い方法はないでしょうか

A：Zoom で話していることを YouTube ライブとして生配信する機能がありますが、配信の際に途中で止めて配信しなおそうとすると、URL が変更されてしまうという問題があります。Zoom のミーティング機能ではなくウェビナー機能を使うと、一時停止後に URL が変更される問題は解消されるようですが、一時停止に過ぎないのでそこは難しいですね。YouTube ライブで配信せずに、チャットでインタラクティブに実施したい場合にはミーティング機能かウェビナー機能を使用するか、YouTube に載せたい場合には録画を編集して掲載する方法もありますが、よりいい方法があるかもしれません。

Q：大規模オンラインイベント（500 名以上）の開催における注意事項や参考情報について伺いたいです

A：大規模イベント（500 人以上）では参加者をケアしようと思うと事務局の手が足りませんが参加者の様々な問い合わせに徹底的に対応する担当者は 1 人あるいは複数人置いた方が良いでしょう。演者や登壇者、ファシリテーターがそれを気にかけなくて済むようにすることが重要です。よくあるのが、イベントで使用するツールに関するお問い合わせ、あるいは苦情です。

Q: 室内の場合、野外的場合、1泊2日で宿泊の場合の適正な参加者人数と気を付けることや大部屋で子どもを泊める場合について知りたいです

A: 自然体験に近い活動の感染対策、工夫やノウハウについては現在情報収集中です。改めて第2回、3回のオンラインセミナー等で発信できればと思っております。

Q: インターネット環境が悪い地域で研修を開く場合、オンラインでの開催が物理的に難しいですが、そのような研修に遠隔で参加するためのよい方法を教えてください

A: ポケットwifiのレンタルでしょうか。できれば事前にインターネット環境を複数のパターンでテストすることができると安全ですが、事前に現地でそれをするのは現実的には難しいかもしれません。

Q: オンラインミーティングを団体内で実施していますが、時間の制限がある会議であるにも関わらず、対面でのミーティングよりも結論が出にくくなっています。改善点などがあれば教えてください

A: 会議が間延びしてしまう場合には、事前に議題とゴールと時間の分数を決めて周知しておくことと良いです。参加者の時間意識を主催者あるいはファシリテーション側と合わせておくことに気を付けています。対面でのミーティングよりも結論が出にくくなることについては、オンラインのミーティングでは体感的には参加者が6人7人になると難易度が急に上がります。オンラインのミーティングがうまく機能して意思決定のスピードが速いといえるのはおそらく参加者が2人か3人の場合です。そのため、ミーティングの参加人数を絞る、あるいは大人数のミーティングをする前に少ない人数で短い時間のミーティングをして意思決定を重ねておくといった事前準備を上手く活用するのがひとつかと思われま

Q: テレワークが進む中での人材育成とか、OJT (On-the-Job Training) が今後どうなるか、どうすると良いか、伺ってみたいです

A: 営利企業の人材育成とか研修にも関わっていますが、悩んでいる組織ばかりです。結論が出せません。基本的にはメンターと呼ばれる伴走するOJTと一緒に考えてくれている上司、先輩や同僚等が並走してこまめに立ち止まって振り返りをし、フィードバックすることは組織内の習慣としては非常に大事です。対面だったらわかる感情の揺れとか気分の落ち込みは察知しにくいものですし、こまめな接点を増やしていくことが大事になるのではないかなと思います。今コーチングに対する需要は非常に高まっているとみられます。コーチング研修の主催団体の研修企画はすぐに定員が埋まっています。1対1や3人等少人数での

コミュニケーションを積み重ねる、とくに、誰かが話していることを聞く、受け止める、フィードバックするといったコーチングの手法は今ニーズが高まっているところですし、それを取り入れることは選択肢の1つではないでしょうか。

Q: オンライン・オフラインのニーズはどう推移していきそうか

A: 正直なところわかりませんが、おそらくオンラインの活用が今後急激に元に戻る、つまり廃れることはないと予想しています。活用度合いは進んでいくだろうと。オフライン・対面のニーズについてはそれが可能になったときにニーズが非常に高まるタイミングが来るのではないかと推測しているところです。希望的観測も入りますが。その時に向けて感染対策しながらオフラインを実施するためのスキルも磨きたいですし、同様にオンラインの腕も磨いていくこともできていけるといいのでは。